

辺野古の今 沖縄から見えるもの

(2月の「早春のつどい」での水沢澄江さんのレジュメから)

0 沖縄について知っていること

- 寒緋桜、中城ひまわり、後生の正月
- オール沖縄：沖縄の基地について
- 辺野古の工事について

なぜ辺野古

1996年から2013年まで、2013年から2016年まで、2016年から現在

1 辺野古新基地建設 大幅変更

1. 辺野古地区地先の埋め立ての完全中止

→現埋め立て区域をブロック制作・仮置き等の作業ヤードとする

名護市との協議なしの変更、名護市の許可不必要に

※辺野古側の埋め立て完了はいつ？

2. 埋め立て土砂2,062万立方メートルのうち1,644万立方メートルが岩ズリ(購入土)

その7割が西日本から購入(6県7地区)

岩ズリの必要量を県内から調達することが可能

※特定外来生物の侵入を阻止するための土砂条例の適用を避ける

岩ズり単価 二束三文のものが1立方メートルあたり5,370円(3年前発注の3倍)必要な量を掛けると883億円

3. 護岸工事・埋め立て工事完了5年→9.5年 地盤改良工事の範囲・内容の大幅縮小

(以前の計画以降に追加の地質調査はなし)

サンドコンパクションパイル工法3.9万本→1.6万本

サントレーン工法3.8万本→3.1万本

※設計概要変更時点での工期短縮・工費削減、砂の必要量を減らすことにやっき。

工期：9年3ヵ月、総工費：9300億円

10年、1兆円超えを避ける

4. 先行埋め立ての問題点

地盤改良工事の終了後中仕切り岸壁の造成後、ケーソン護岸設置予定箇所の内側に先行盛土を施工、海上からトレミー船による先行埋め立て水深35メートル～水深10メートルまで海中で

厚さ25メートルの先行盛土をし、その上にケーソン護岸を設置

※海中土砂は締固めができずケーソンはズブズブ沈下、硬い改訂地盤もありケーソンは傾く。

トレミー法でも管は海底に届かず、海底汚濁拡散

5. セメント、界面活性剤を使った「軽量盛土」

幅111メートル、厚さ8メートル

建設残土に水とセメントを混合、界面活性剤で気泡を発生させ固化した気泡混合土を使用

※かなりの規模のプラントが必要

大量の濁水、界面活性剤の環境への影響、乾燥による劣化、強度

※「技術検討会」委員の半数は業者からの寄付金受領

2 現場の闘い

1. 安和・琉球セメント

琉球セメント棧橋への出口、入口

ダンプの出入りを押さえる

現在、構内に土砂の仮置き場有り

入り口は、左折車、右折車有り

本部島ぐるみと、曜日ごとに島ぐるみ割り当て歩く人、ダンプの台数をチェックする人

海上行動 火曜日、水曜日、金曜日

カヌーとゴムボート等

辺野古のテント2より陸上運搬、台車・牽引車、軽トラ、後続チェック車

ガット船(運搬船)現在18隻？

1日に3隻、1隻に180台とか190台のダンプ

土砂、最近・船の大型化、1隻で300台分

カヌーは、離岸・接岸を阻止すべく

当初、アンカーロープ、タグボートなどへの張り付き

現在、民間セキュリティがアンカーロープに張り付き、カヌーを近づかせない

カヌーは棧橋下で、ガット船の船首、船尾の網にカヌーを固定、長短、太細のロープを使い、いかに長い時間、ガット船の離岸を遅らせるか。

一日に2回とかも。ガット船2隻に抑えてはいるものの。

九条の会さかど 15周年のつどい

日時 7月26日(日曜日)13時30分～16時(6月28日から再延期)

会場 坂戸駅前集会施設(2階)集会室

内容 「9条は変えたほうがいい」に静かに耳を傾ける

2. 本部塩川港

台風で損壊して、琉球セメントの棧橋を臨時に使ったはずなのに、現在2港を使用。

3隻の積み込み。防衛局員が並ぶ。機動隊が来るまで1～2時間ストップさせることができる。

3. 辺野古海

・K8護岸

離着岸時に、カヌーはオイルフェンスを越えて抗議。なかなか近づくことは難しい。

ダンプで埋め立て地区に運び投下している。

・K9護岸

離着陸時に、カヌーはV字フロートを超える。台船に近づける時もある。

離着岸が遅れる。

・大浦湾開口部

前日、安和で土砂を積み込んだガット船がオイルフェンスで囲われた開口部から、朝8時30分頃入って来る。

間に合えば、開口部にカヌーを縛り、ガット船の入港を遅らせる。

・K1、K2、消波ブロックを設置

カヌーはオイルフェンスを越えて抗議。

・ガット船からランプウェイ台船への積み替えに抗議

・護岸を広げる作業有り

クレーンで蛇籠と鉄板を設置。消波ブロックをつり上げるクレーンは巨大で、しっかりした足場が必要。

※なかなか止めることは難しい。カヌー、船とも人が欲しい。

・キャンプ・シュワブゲート前

9時、12時、15時、ダンプが資材搬入

往時には500台入っていたダンプ、最近では200台弱

生コン車が多い。鉄板、蛇籠の石材。

座り込みは一桁の時も。第3木曜日が大行動。

1月16日は250人、座り込みも200人。機動隊100人、排除30分。

最近の機動隊、最近のゲート前。

3 問題の数々

● 琉球セメント

塩川が使えないための臨時の使用だったはず。心斎橋建設後、旧棧橋は壊すはず一危険な状態で使い続けている。しかも持ち主の琉球セメントが。

● 「岩ずり」がいつの間にか「赤土」に

コンベアの故障、海水の汚濁、法外な値段

● 警備費用の無駄、1,700億？

必要のない人数、時間、規定の範囲を超えて。

● 「環境等監視委員会」「技術検討委員会」

御用機関、利益相反（東委員長の告発）

入札の謎

● 利権に群がる「本土」大手企業

● 何より、技術的、費用的、工期的に、展望のない無謀な建設計画

「語れない」と語ること

西坂戸 大山 茂

戦場の生(なま)の体験を語り継いでいくことがとても重要なことであることから、これまでも九条の会さかどでは、戦場体験を何人もの方に語っていただきました。また、国内での「戦争体験」も語っていただいています。

しかしながら、戦場の生々しい体験をかたっていただけの方々の高齢化が進み、語っていただくことが困難になっている状況もあります。

戦場体験を語れる方が極めて限られているなか、近隣の市に住んでいるSさんの情報を得ました。Sさんは1943年(昭和18年)に19歳で現役徴集、インパール作戦に第31師団の兵員として参加しました。多くの戦死・餓死者を出した作戦から生き残り、その後のイラワジ会戦などのイギリス軍のビルマ攻略を受けながらも生還した貴重な体験を持っていること。また、戦後はビルマからの留学生への援助などを積極的に行なっています。

徴兵年齢が20歳から19歳に引き下げられた時の現役徴集であり、インパール作戦の貴重な生還者であることから、「なまの戦場体験」を語ってもらうのには最もふさわしいし、95歳という年齢であるし、語ってもらうには今しかないとの思いから、「九条の会さかど」の趣旨を話し、インパール作戦での戦場体験を語ってくださいとお願いしました。

お答えとしては、「語ることはいくつか」ときっぱり断ってきました。「今後戦争をさせていかないう世の中にするために、ぜひ体験を語ってください。」と食い下がりました。

「戦争は反対だ。」としたうえで、Sさんは「インパール作戦の最中、本部で事務の仕事をするということで交代した方が無残な死に方をした。居残った自分が恥ずかしい、申し訳ない気持ちでいっぱい、とても語ることはいくつか」ときっぱりと語りました。

「なまの戦場体験」を聞いてみたい一心からもっと食い下がろうかと思いましたが、「語れない」ということを「語ってくれたこと」に価値があると判断し、「お気持ちはわかりました」と述べて、引き下がることにしました。

「なまの戦場体験」を聞きたいと「戦後生まれ世代」は願うけれども、「戦場体験」をした方々でなければわからない感情を持つのだということを理解していきたいと思いました。

引き続きカンパのお願い

九条の会さかどの活動を、カンパを通じて応援したいとお思いの皆さま、カンパをお待ちしております。

【郵便振替口座】

● 加入者名 小林忠夫

● 口座番号 00570-1-7977

● 通信欄に「九条カンパ」とご記入ください。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

6月25日、7月23日、8月27日(第4木曜日10時～12時)施設使用が解除されるまで、インターネットのZoomで開催します。参加方法についてはお問い合わせください。